

V. 疫 学 調 査

1) 発生農家の状況

①名護市字済井出 Y.N. 農家 S61. 10. 4 発生、経営形態：繁殖肥育一貫経営、経験年数：18年

飼養状況：種雄豚6頭、種雌豚104頭、哺乳豚134頭、育成豚588頭、肉豚1,252頭 計2,084頭。

発生頭数（転帰内訳）：781頭（死亡469頭、命令殺301頭、鑑定殺11頭）

ワクチン接種状況：飼養豚の殆んどが実施されていない。

家畜の導入状況：昭和61年8月9日、東風平町からA家畜商を介し子豚（ワクチン未接種）を導入。

飼料給与状況および購入先の状況：完全配合飼料を給与。配合飼料は㈱琉球飼料を北部養豚組合を通じ購入している。同飼料は周辺農家にも供給され、そこでの立入検査では異常は認められなかった。

衛生状況：畜舎は1週間に1回の割で消毒され、踏込消毒槽も設置されている。

感染経路：家畜の移入、飼料の購入先、人、車両の交流等の疫学調査をあらゆる面から検討した。特に当該農家は県内での本病の初発農家であることから、肥育素豚の導入経路と導入先農家の疾病歴等について家畜商からも詳細に事情聴取し、その究明に努めたが特定するに至らなかつた。

②名護市字済井出 Z.M. 農家 S61. 10. 4 発生、経営形態：繁殖肥育一貫経営 経験年数：25年

飼養状況：種雄豚4頭、種雌豚62頭、哺乳豚314頭、育成豚174頭、肉豚1,088頭 計1,642頭。

発生頭数（転帰内訳）：353頭（死亡115頭、命令殺232頭、鑑定殺6頭）

ワクチン接種状況：飼養豚の殆んどが実施されていない。

家畜の導入状況：導入はなし。

飼料給与状況及び購入先の状況：完全配合飼料給与。配合飼料は㈱琉球飼料を購入。同飼料は周辺農家にも供給され、そこでの立入検査では異常は認められなかつた。

衛生状況：畜舎は定期的に消毒され、踏込槽も設置されている。

感染経路：当該農家は名護市の初発農家であるNo.1の農家と同じ養豚団地内にあり、域内伝播による感染が推定された。

③名護市字済井手 M.M. 農家 S61. 10. 4 発生

経営状態：繁殖肥育1貫経営 経験年数8年

飼養状況：種雄豚4頭、種雌豚59頭、哺乳豚250頭、育成豚53頭、肉豚305頭、計671頭。

発生頭数（転帰内訳）：161頭（死亡3頭、命令殺152頭、鑑定殺6頭）

ワクチン接種状況：飼養豚の殆んどが実施されていない。

家畜の導入状況：導入はなし。

飼料給与状況及び購入先の状況：完全配合飼料給与。配合飼料は琉球飼料を購入。同飼料は周辺農家にも供給され、その立入検査では異常は認められなかった。

衛生状況：畜舎は定期的に消毒され、踏込消毒槽も設置されている。

感染経路：当該農家はNo.1の農家と同じ団地内にあり、域内伝播による感染が推定された。

④名護市字済井出 Z.M.農家 S61. 10. 4 発生

経営形態：繁殖経営 経験年数：4年

飼養状況：種雄豚7頭、種雌豚120頭、哺乳豚176頭、育成豚217頭、計520頭。

発生頭数（転帰内訳）：30頭（命令殺29頭、鑑定殺1頭）

ワクチン接種状況：育成豚（40～60日令）については全頭接種済であるが、繁殖豚は子豚時に1回接種されたのみで補強注射はなされていない。

家畜の導入状況：導入はなし。

飼料給与状況及び購入先の状況：完全配合飼料給与。配合飼料は農協（全農）を購入。同飼料は周辺農家にも供給され、その立入検査では異常は認められない。

衛生状況：畜舎は定期的に消毒され、踏込消毒槽も設置されている。

感染経路：当該農家はNo.1の農家と同じ団地内にあり、域内伝播による感染が推定された。

⑤名護市字済井出 Y.T.農家 S61. 10. 4 発生

経営形態：繁殖肥育一貫経営 経験年数：8年

飼養状況：種雄豚5頭、種雌豚85頭、哺乳豚160頭、育成豚172頭、肉豚600頭 計1,022頭

発生頭数（転帰内訳）：42頭（命令殺41頭、鑑定殺1頭）

ワクチン接種状況：飼養豚の殆んどが実施されていない。

家畜の導入状況：導入はなし。

飼料給与状況及び購入先の状況：完全配合飼料給与。配合飼料は琉球飼料を購入。同飼料は周辺農家にも供給され、その立入検査では異常は認められない。

衛生状況：畜舎は定期的に消毒され、踏込消毒槽も設置されている。

感染経路：当該農家はNo.1の農家と同じ団地内にあり、域内伝播による感染が推定された。

⑥本部町字辺名地 E.K.農家 S61. 10. 4 発生

経営形態：繁殖肥育一貫経営 経験年数：18年

飼養状況：種雄豚29頭、種雌豚480頭、哺乳豚585頭、育成豚1,850頭、肉豚1,150頭、計4,094頭

発生頭数（転帰内訳）：1,263頭（死亡85頭、命令殺1,169頭、鑑定殺9頭）

ワクチン接種状況：飼養豚の殆んどが実施されていない。

家畜の導入状況：昭和61年8月6日、南風原町（今回の発生農家）、9月9日、東風平町からA家畜商を介し子豚（ワクチン未接種）を導入。

飼料給与状況及び購入先の状況：完全配合飼料を給与。配合飼料は本部町農協から購入している。同飼料は周辺農家にも供給され、そこでの立入検査では異常は認められなかった。

衛生状況：畜舎は逆性石鹼で自動噴霧器を用いて1時間毎に1回消毒し、踏込槽も各棟に設置されている。畜舎環境は良好である。

感染経路：家畜の導入、飼料の購入先、人、車両の交流等の疫学調査をあらゆる面から検討した。特に肥育素豚の導入については、南部地区の発生農家との関係上、取引家畜商からも詳細に事情聴取し、その究明に努めたが特定するに至らなかった。

⑦本部町字辺名地 N.K.農家 S61. 10. 4 発生

経営形態：繁殖経営農家 経験年数 15年

飼養状況：種雄豚6頭、種雌豚100頭、哺乳豚65頭、育成豚120頭、計291頭

発生頭数（転帰内訳）：22頭（命令殺22頭）

ワクチン接種状況：飼養豚の殆んどが実施されていない。

家畜の導入状況：導入はなし。

飼料給与状況及び購入先の状況：完全配合飼料を給与。配合飼料は本部町農協から購入している。同飼料は周辺農家にも供給され、そこでの立入検査では異常は認められなかった。

衛生状況：消毒は定期的に実施され、踏込消毒槽も設置されている。畜舎環境は良好である。

感染経路：当該農家は本部町の初発であるNo.6の農家と道を隔て隣接しているため、域内伝播による感染が推定される。

⑧具志川市字具志川 C.N.農家 S61. 10. 8 発生

経営形態：肥育経営 経験年数：5年

飼養状況：育成豚27頭、肉豚138頭、計165頭。

発生頭数（転帰内訳）：41頭（死亡7頭、命令殺31頭、鑑定殺3頭）

ワクチン接種状況：全飼養豚実施されていない。

家畜の導入状況：昭和61年9月上旬、隣接農家（繁殖経営）3戸から子豚を導入、育成している。導入先では異常豚の発生は認められない。飼料給与状況及び購入先の状況：完全配合飼料、残飯給与。配合飼料は具志川市農協から購入しているが、同飼料は周辺農家にも供給され、そこでの立入検査では異常は認められない。残飯は字内の保育園、レストラン、一般家庭から入手しているが異常は認められない。

衛生状況：從来から畜舎消毒は殆んど実施されていない。また踏込消毒槽も設置されてなく、

畜舎環境は不良である。

感染経路：家畜の移入、飼料の購入先、人、車両の交流等の疫学調査をあらゆる面から検討し究明したが、特定するに至らなかった。

⑨糸満市字座波 Y.U.農家 S61. 10. 9発生

経営形態：肥育経営 経験年数：20年

飼養状況：育成豚48頭、肉豚158頭 計206頭。

発生頭数（転帰内訳）：34頭（死亡7頭、命令殺18頭、鑑定殺3頭）

ワクチン接種状況：家畜セリ市場からの導入豚はワクチン接種済であるが、庭先売買分については実施されていない。

家畜の導入状況：昭和61年8月22日、農見城村字饒波の繁殖経営農家から子豚15頭（ワクチン未接種）を導入、育成しているが、導入先では異常豚の発生は認められない。

飼料給与状況及び購入先の状況：完全配合飼料、酒粕を給与。配合飼料は兼城農協から購入しているが、同飼料は周辺農家にも供給され、そこで立入検査では異常は認められない。酒粕は市内の酒造会社から入手しているが異常は認められない。

衛生状況：畜舎は定期的に消毒され、踏込消毒槽も設置されている。畜舎環境は普通。

感染経路：家畜の移入、飼料の購入先、人、車両の交流等の疫学調査をあらゆる面から検討し究明したが、特定するに至らなかった。

⑩東風平町字志多伯 T.K.農家 S61. 10. 10発生

経営形態：肥育経営 経験数年：19年

飼養状況：育成豚15頭、肉豚110頭、計125頭。

発生頭数（転帰内訳）：42頭（死亡14頭、命令殺25頭、鑑定殺3頭）

ワクチン接種状況：全飼養豚実施されていない。

家畜導入状況：昭和61年7月20日、糸満市字賀数の一貫経営農家から子豚15頭を導入、育成しているが、導入先では異常豚の発生は認められない。

飼料の給与状況及び購入先の状況：完全配合飼料、残飯を給与。配合飼料は東風平町農協から購入しているが、同飼料は周辺農家にも供給され、そこで立入検査では異常は認められない。残飯は豊見城村内の総合病院から入手しているが、異常は認められない。

衛生状況：従来から畜舎消毒は殆んど実施されていない。また踏込消毒槽も設置されてなく、畜舎環境は不良である。

感染経路：家畜の移入、飼料の購入先、人、車両の交流等の疫学調査をあらゆる面から検討し究明したが、特定するに至らなかった。

⑪南風原町字喜屋武 Y.N.農家 S61. 10. 10発生

経営形態：繁殖肥育一貫経営 経験年数：5年

飼養状況：種雄豚1頭、種雌豚43頭、哺乳豚75頭、育成豚15頭、肉豚7頭、計141頭。

発生頭数（転帰内訳）：19頭（命令殺16頭、鑑定殺3頭）

ワクチン接種状況：全飼養豚実施されていない。

家畜の導入状況：昭和61年8月17日、A家畜商から子豚3頭を導入し、その一週間後に3頭ともへい死。その後約1ヶ月経過して自家生産豚に異常が認められた。A家畜商の3頭の買入先是東風平町字志多伯の繁殖経営農家であるが当該農家の立入検査では異常は認められなかった。

飼料の給与状況及び購入先の状況：完全配合飼料、残飯給与。配合飼料は南風原町農協から購入しているが、同飼料は周辺農家にも供給され、そこでの立入検査では異常は認められない。残飯は一般家庭から入手しているが異常は認められない。

衛生状況：畜舎は定期的に消毒され、踏込消毒槽も設置されている。畜舎環境は良好。

感染経路：家畜の移入、飼料の購入先、人、車両の交流等の疫学調査をあらゆる面から検討し究明したが、特定するに至らなかった。

⑫糸満市字阿波根 Y.G.農家 S61. 10. 11発生

経営形態：繁殖肥育一貫経営、経験年数：5年

飼養状況：種雄豚3頭、種雌豚20頭、哺乳豚32頭、育成豚16頭、肉豚26頭、計97頭

発生頭数（転帰内訳）：24頭（死亡1頭、命令殺20頭、鑑定殺3頭）

ワクチン接種状況：全飼養豚実施されていない。

家畜の導入状況：昭和61年9月3日、東風平町字宜次の繁殖経営農家から子豚5頭（ワクチン未接種）を導入、育成している。導入先では異常豚の発生は認められなかった。

飼料の給与状況および購入先の状況：完全配合飼料を給与。配合飼料は豊見城村農協から購入しているが、同飼料は周辺農家にも供給され、そこでの立入検査では異常は認められない。

衛生状況：畜舎は定期的に消毒され、踏込消毒槽も設置されている。畜舎環境は良好。

感染経路：家畜の移入、飼料の購入先、人、車両の交流等の疫学調査をあらゆる面から検討し究明したが、特定するに至らなかった。

豚コレラ発生農家における豚飼養状況及び発症豚の転帰

病名		豚コレラ		患畜又は疑似患畜の区分				患畜	
家畜の種類		豚		家畜保健衛生所名				北部家畜保健衛生所	
発生場所		名護市 字済井出	名護市 字済井出	名護市 字済井出	名護市 字済井出	名護市 字済井出	本部町 字辺名地	本部町 字辺名地	合計
畜主氏名		Y.N.	Z.M.	M.M.	Z.M.	Y.T.	E.K.	N.K.	
決定年月日		昭和61年 10月4日							
飼 養 状 況	種雄豚	6	4	4	7	5	29	6	61
	種雌豚	104	62	59	120	85	480	100	1,010
	哺乳豚	134	314	250	176	160	585	65	1,684
	育成豚	588	174	53	217	172	1,850	120	3,174
	肉豚	1,252	1,088	305	0	600	1,150	0	4,395
	合計	2,084	1,642	671	520	1,022	4,094	291	10,324
転 帰 内 訳	発生頭数	781	353	161	30	42	1,263	22	2,652
	死亡頭数	469	115	3	0	0	85	0	672
	命令殺	301	232	152	29	41	1,169	22	1,946
	鑑定殺	11	6	6	1	1	9	0	34
	自衛殺	0	0	0	0	0	0	0	0

豚コレラ発生農家における豚飼養状況及び発症豚の転帰（続）

病名		豚コレラ		患畜又は疑似患畜の区分				患畜			
家畜の種類		豚		家畜保健衛生所名				中央家畜保健衛生所			
発生場所		具志川市 字具志川	糸満市 字座波	東風平町 字志名伯	南風原町 字喜屋武	糸満市 字阿波根	合計				
畜主氏名		C.N.	Y.U.	T.K.	Y.N.	Y.G.					
決定年月日		昭和61年 10月8日	昭和61年 10月9日	昭和61年 10月10日	昭和61年 10月10日	昭和61年 10月11日					
飼 養 状 況	種雄豚	0	0	0	1	3	4				
	種雌豚	0	0	0	43	20	63				
	哺乳豚	0	0	0	75	32	107				
	育成豚	27	48	15	15	16	121				
	肉豚	138	158	110	7	26	439				
	合計	165	206	125	141	97	734				
転 帰 内 訳	発生頭数	41	34	42	19	24	160				
	死亡頭数	7	13	14	0	1	35				
	命令殺	31	18	25	16	20	110				
	鑑定殺	3	3	3	3	3	15				
	自衛殺	0	0	0	0	0	0				

2) 県外からの豚導入状況（中家保管内）

感染経路の追跡調査を県外導入豚について実施した。昭和61年の1月から発生までの導入件数は11件、242頭であり、全頭数が豚コレラワクチン接種済であった。また導入後脱臼や事故によって廃用に至った豚を除き、臨床検査と当該農家の疾病発生歴について市町村、農協、業者等の協力を得て調査を行ったが、異常は認められなかった。

県外からの種豚導入状況

導入市町村	導入月日	導入頭数	導入先	異常の有無	備考
宜野湾市	S61. 2. 12	2	茨城	無	
大里村	4. 2	1	熊本	ノ	
ノ	4. 2	1	ノ	ノ	
糸満市	4. 25	1	三重県	ノ	
玉城村	4. 25	1	ノ	ノ	
東風平町	5. 17	112	宮崎	ノ	
那覇市	5. 22	2	熊本	ノ	
西原町	5. 28	3	茨城	ノ	
東風平町	6. 14	57	宮崎	ノ	
具志川市	7. 7	5	埼玉(2)千葉(3)	ノ	
東風平町	9. 10	57	宮崎	ノ	

[注] 北部家畜保健所管内では昭和61年1月～同9月末日までに県外からの種豚の導入はなかった。